

SESSION 7  
情報保障とテクノロジー

基礎的な発想から  
多様な人材が  
参画できるように



東京工芸大学  
阿部直子 さん



バリアフリーなどの  
区別する言葉がない  
社会を実現したい



筑波大学  
設楽明寿 さん



私が伝えたい  
ことを  
常に考え続ける  
なぜ?



日本科学未来館  
中野夏海 さん

芸術と工業の融合



東京工芸大学

山口市: 日本文化センター - 山口県立美術館 YCAM

技術 ... アート ... 教育 ... キュレターとの  
コラボレーション



「最新の技術を使い、  
みんなが交流、共生する  
機会を提供したい」



日本科学未来館の情報保障とテクノロジー



多岐な  
経歴 ... 音楽 ... 医学 ... クラフト ... 学校職員

科学コミュニケーター



全ての人が  
楽しめる場所

視覚障がい

聴覚障がい

See-Through Captions



説明



聴覚障がいの人に  
情報保障

音声には音声で説明文を表示



聴覚障がいの人  
以外も参加

「あなたを歓迎したい」



≠ 全員に声かけ  
○ 特定の人の  
一人ひとりに声かけ



# 音声認識の活動と研究に専事



今更にもって工夫

誰もが使える解決の仕組み作り

## Hapt Starter

陸上競技  
反応速度  
視覚(光) < 触覚

両手=2人  
両手=2人  
指に刺激

五感によるハートの解消

## See Thought Captions

相手の顔が見える♡

両側から見る: とかでも透明ディスプレイ

## 超AI基盤 空回視聴 触覚技術

自分の五感の記憶を  
パソコン・クラウド上に  
全て記録することで  
今後の生活に活かす

## See Thought Captions

開発と社会実装の克服は?

最終はテクノロジーはわかるが  
苦労したのが、慣れと日常のやり直し

習得期間  
3ヶ月程度

例  
3行で  
説明する  
テクニック

現在は12inch. 今後は12inch-20inch増加

4 12inch 20inch

開発 2020年 2021年 3A...6月 2022年

デジタルで多くの人が使ってもらいたい

コロナ禍 企画スタート → 表示の研究 → 共同研究 → 日本科学未来館で実証実験

顔が見える  
コミュニケーション

研究体制 3人 → 5人

## See Thought Captions

### 今後の展望

手話と併用して  
See Thought Captionsに接続

## 日本科学未来館の機能・役割

ここから HUB

ここまで 展示場所 →

ここから 大学の研究機関  
DIVERSITY

社会実装の実験の場

## STEAM教育

筑波研大

聴者 3人着

お互いに自然に繋がる関係性を育む  
教育・技術・文化

## 女性LABO

3人着 視覚中心のコミュニケーション  
× 筑波研大  
コミュニケーションとテクノロジーの融合で  
新しい生活文化を創造

## Chat GPT 生成系AI

必ずしも、全ての最新技術に追いつく必要はないかも

AIがデータは過去のデータの組み合わせの価値観が反映されている問題。

3人着聴者には聴者視点のテクノロジーを押し付けていることと実感。3人着聴者視点で考えられた。

## ここからの挑戦

日本科学未来館で新しい体験を提供し続けた。